

生活道路における交通安全・防犯の安心・不安意識に関する研究 — 街路の空間構成要素と地域内コミュニティに着目して —

社会システム計画学研究室2014年度修了研究 岡村篤

研究の背景

安全・安心の取り組み

→ 全国の至る所で行われている

- 交通安全と防犯の話が混在
- 安心なまちづくりの定義があいまい

→ どんなことをすれば人々が安心できるのかが明確でない

- 安全 → 客観的データに基づく
- 安心 → 人々の主観に基づく

実際は安全である地域でも、人々はその地域に対して安心しているとは限らない

実際は事故や犯罪が起こらない安全な場所



例

人通りが少ないなどの理由で人々は不安を感じている

安全と安心は必ずしも一致しないと考えられるため、客観的なデータのみで安心を高める対策を進めていくことは難しい

安心なまちづくりを進めていくには...

人々が「安心・不安」を感じる要因を把握することが必要

研究の目的

交通安全と防犯の両面で、個々の街路空間構成要素に対する安心・不安意識の傾向を把握するとともに、それらの意識や地域住民の地域との関わり方などが地域全体の安心・不安意識に対して及ぼす影響を明らかにする

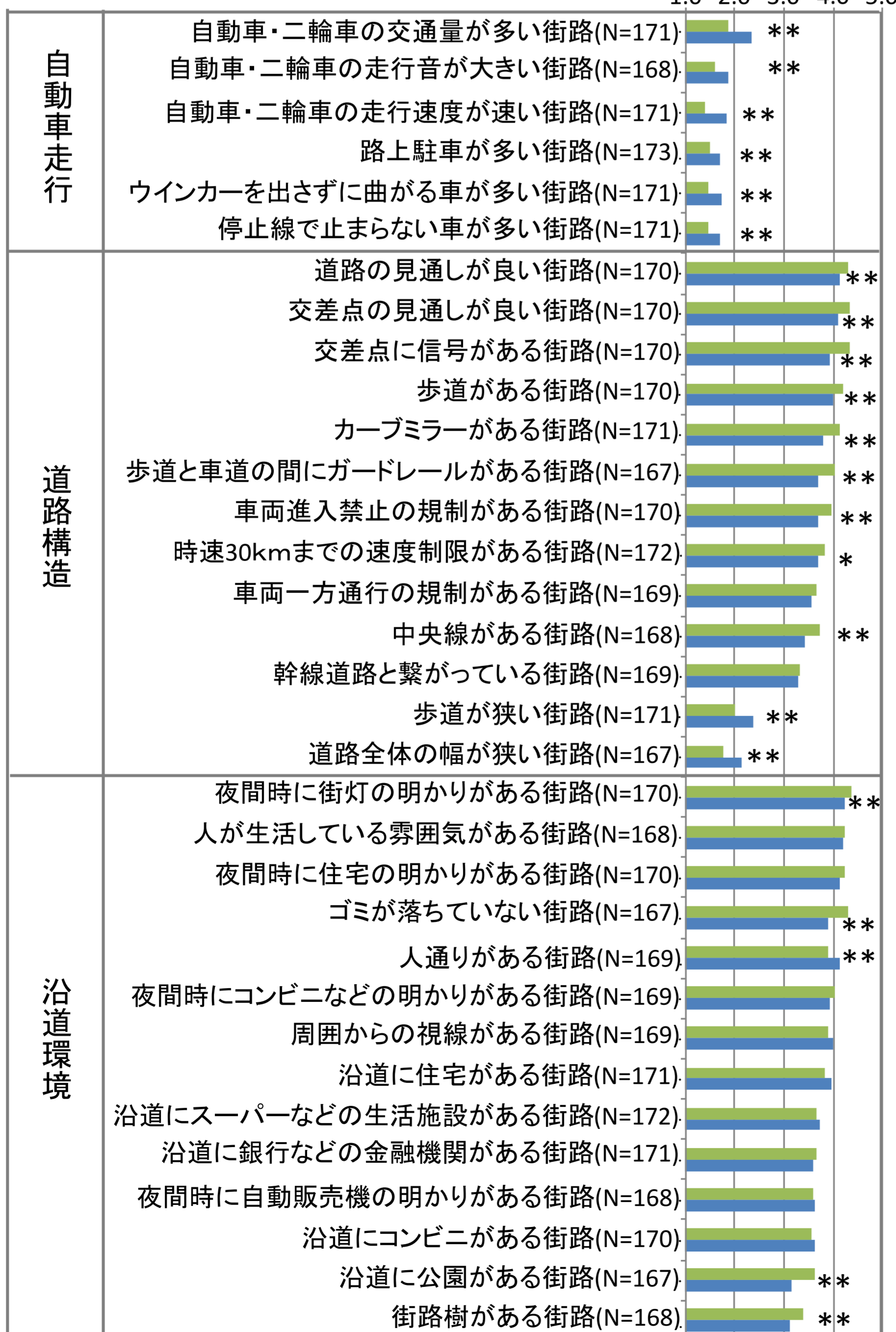
分析結果

交通安全と防犯における個々の街路空間構成要素に対する安心・不安の平均値

平均値の差の検定
*:1%有意 **:5%有意

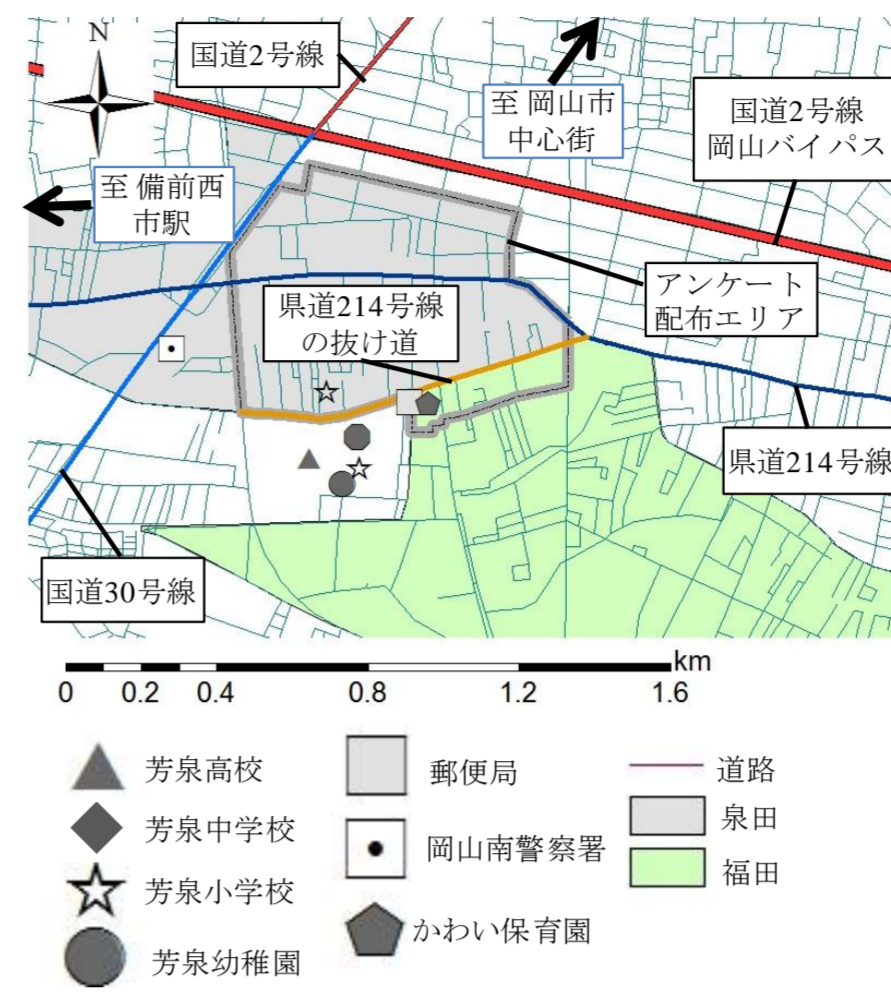
■ 交通安全 ■ 防犯

不安 ←→ 安心
1.0 2.0 3.0 4.0 5.0



◆交通安全上で安心な街路は防犯上でも安心であり、一方で不安な街路についても同様に評価される傾向にある

分析対象地区と使用データ



生活道路で交通事故や犯罪が多い地区を分析対象地域として設定 (岡山市警察の暮らしの安全WebMapを基に選定)

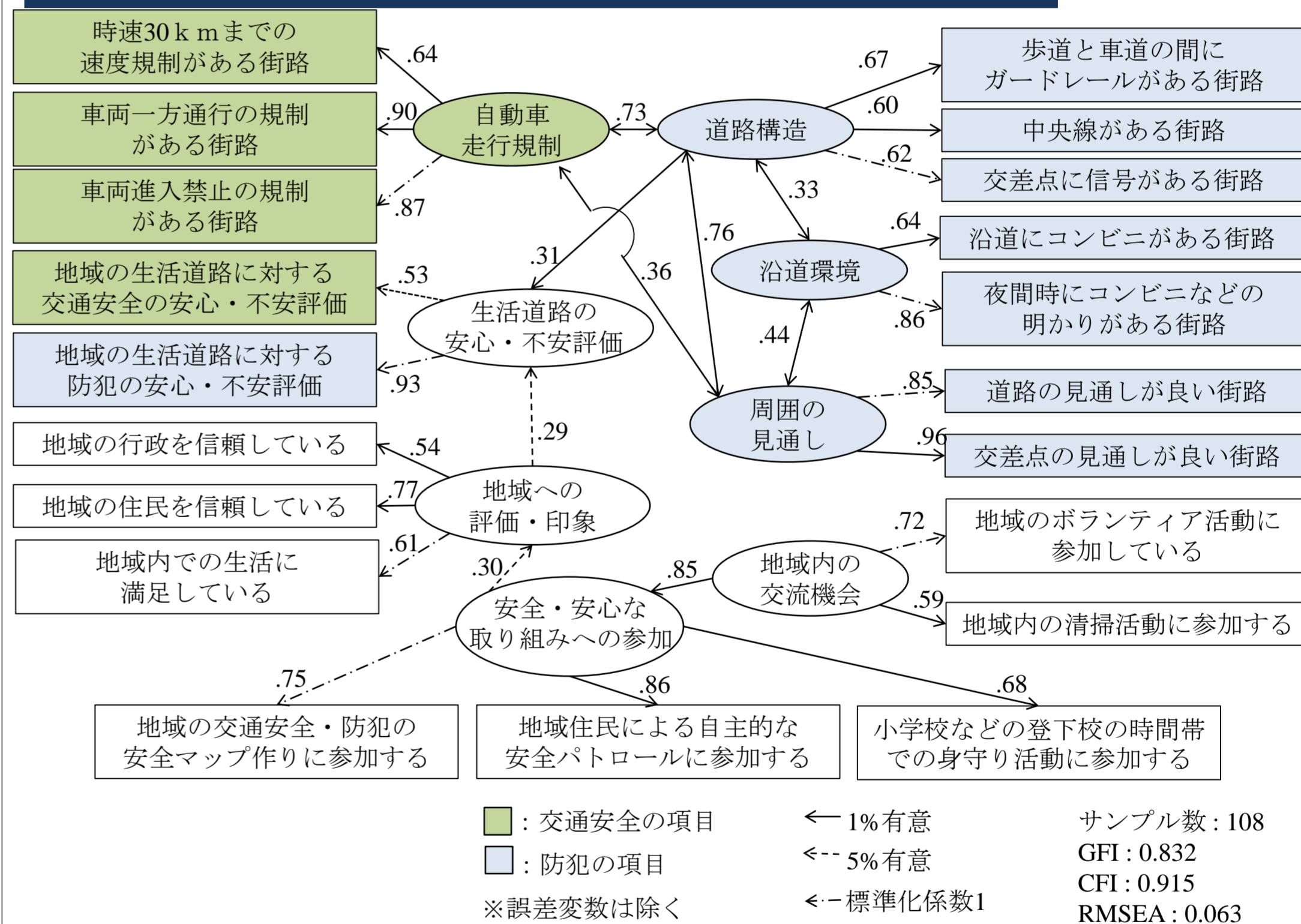
アンケート調査の概要

調査名	交通安全・防犯に関して安心な生活道路を考えるためのアンケート調査	
対象地域	岡山市南区 福田・泉田地区	岡山市南区 妹尾・箕島地区
配布・回収方法	無作為抽出後、ポスティングによる配布・郵送回収	
調査時期	2012年12月	
配布世帯数	1,000	1,000
回収部数	168	179
回収率	16.8%	17.9%
調査内容	生活道路における街路の空間構成要素に対する交通安全上の安心・不安意識 生活道路における街路の空間構成要素に対する防犯上の安心・不安意識 居住地域内の生活道路全体に対する交通安全上の安心・不安評価 居住地域内の生活道路全体に対する防犯上の安心・不安評価 地域住民の地域との関わり方 安全・安心なまちづくり活動を含めた地域住民の実際の地域内活動への参加状況 個人属性	

- 個々の街路空間構成要素に対する安心・不安意識を交通安全と防犯の両面から把握
- 対象地域内の人々の地域との関わり方や地域内活動への参加状況などを把握
- 地域内の生活道路全体を対象とした生活道路に対する安心・不安意識を5段階評価で把握

各アンケート項目の傾向を把握し、因果関係を分析する

安心・不安評価に対する共分散構造モデル



◆「自動車走行」「道路構造」「周囲の見通し」「沿道環境」の4つの潜在変数の間に統計的に有意なパスが通っており、また「道路構造」から「生活道路の安心・不安評価」に対してパスが通っている

◆「地域内の交流機会」から「安全・安心な取り組みへの参加」へ統計的に有意なパスが引けており、そこから「地域への評価・印象」を経由して「生活道路の安心・不安評価」に対してパスが通っている

結論

地域全体の安心意識を向上させるためには...

ソフト面

- ✓ 地域内の交流機会の設置
- ✓ 安全・安心の取り組みの促進

ハード面

- ✓ 自動車走行や道路構造、沿道環境、周囲の見通しを一体とした取り組み (道路の改良、etc)

交通安全と防犯の両面に関して、安心意識向上に対して有効である